



岸和田市立桜台中学校 学校教育目標「ともに学びともに育つ」



桜台中通信 No.5

校訓「自主・敬愛・健康」



令和4年9月2日発行 校長 池内容子

◎8月5日(金) 中学生議会素晴らしかったです。

岸和田市市制施行100周年記念事業の1つとして「中学生議会」が開かれました。市内各中学校を代表する中学生議員が質問や提言を行いました。桜台中学校からは生徒会執行部3年生 さん、 さん、1年生 さんの3名が代表議員として参加しました。「みんながみんなを大事にする・見守る」というテーマから考えて、平和学習について桜台中学校の取り組みを紹介し、ウクライナに向けた支援活動など中学生として自分たちにできる活動はないかなど話し合ったことを伝えました。そして、岸和田市へ「市の平和活動」と「いじめ問題についての対策」について質問しました。これらの質疑応答については下記の日程で岸和田テレビで放映されます。

最後に中学生議会から、「今世界は変化の時代です。新型コロナウイルス感染症に始まり災害、気候変動、情報化など様々な激し変化に直面しています。そんな状況の中でも…仲間を信頼し、励まし合い、助け合い、応援し合い努力を続ければ夢は必ず叶う。…そのために、これから私たちは3つの『間』を大切にします。一緒に励まし合い高め合える仲間、一緒に頑張れる仲間、感動や喜びを共有できる空間、この3つの『間』をこれから大事に、そしてこの中学生議会での経験を活かし、私たちはそれぞれの未来に向かって進み、岸和田市をみんなが輝く街にするという夢を叶えたいと思います。というアピールをして締めくくりました。本当に素晴らしかったです。

大下教育長からも「大変な緊張感の中でも大きな声で堂々と発言されているので大変感心しました。私たちもみなさんの真剣な質問を受けて、真剣に一生懸命答弁させていただきました。…選挙権を持てば知事や市長といった自治体の長、あるいは国・府・市の議員のみなさんを選ぶ権利をみなさん一人一人が持つことになります。…選挙権を通じて皆さんが自らの力でこれからの輝かしい岸和田市の100年、さらには日本の輝かしい50年、100年を創っていくために精一杯貢献されることを心から期待して降ります」と結ばれました。



岸和田市市制施行100周年記念事業

中学生議会

テレビ岸和田

9月3日(土)19時～

9月4日(日)13時～

180分(桜台は後半)

第72回 “社会を明るくする運動” 作文コンテスト 入賞作文

市長賞(中学生の部)

世間側の変化が必要 桜台中学校2年

みなさんは犯罪についてどう思いますか。今の社会は生きやすい社会であると思いますか。私はテレビで過去に非行におちいってしまった方のインタビューを見た事があります。その時インタビューに応じていた人はこう言いました。

「社会に戻るのが怖い、世間の人達が怖い。」もともとその方は、過去に犯罪を犯しており、刑務所にいたそうです。刑務所での生活は、決められた時間に決められたことをするそれが当たり前でした。なので社会に戻ると何もかもが一からで、すべてが自由なのでその自由な生活が怖いと言っていました。

それに、どうしても社会に立ち直っても世間の目が怖く、犯罪者の目で見られる方が多くいます。ですが更生するには周りのサポートも必要です。その中でこういった方々が生きやすい社会にするためにはどうしたら良いでしょうか。

みなさんはそもそも、なぜ犯罪が起きると思いますか。私は正直、なぜ犯罪が起きるのか分かりません。しかし、犯罪が起きる理由が分かったとしても、世界中のみんなが同じ考えを持たない限り、全く犯罪が起きない社会にすることは無理な話だと思います。けれど少しの意識で減らすことは可能になるのではないのでしょうか。行動的にこれから先のこと自分の周りの人達のことなど色々な事を考えると少しは考えが変化するのではないのでしょうか。なんのために自分が犯罪を犯そうとしているのか、自分がしようとしている行動は正しいのか、考え直すべきではないでしょうか。犯罪を犯してから気付くのは手遅れです。

その頃には自分の大切な人、大切なものを失っているかもしれません。何より意識することが大切だと思います。

生きやすい社会にするには、世間側の考えを変えることが大切だと思います。刑務所からでてきた人という理由で犯罪者の目で見られるのは違うと思います。そういった方達もいと理解し、受け入れ、社会と向き合いながらサポートしあうことが必要だと思います。

きちんと更生するには周りのサポートがあってだと思います。そのために、よりよく暮らせる社会にするには世間の人たちの考えを変えていくことが最も重要だと思います。世間の人達の考えで社会は少しでも変化するのではないのでしょうか。

私はこのような社会問題で大切なのは、一人一人の意識、世間側の考えを変化することだと思います。そして、これからの社会が平等で、皆生きやすい社会になることを願います。

教育長賞(中学生の部)

薬物 桜台中学校3年

みなさんは、薬物についてどう思っていますか。私は、そういうものを身近に感じたことはありません。しかし、最近、新聞やニュースで芸能人の方が覚醒剤などの使用容疑の罪で逮捕されるといった話題が尽きないように感じています。

私が、薬物の存在をしっかりと認識したのは、学校で行われた、麻薬などについての特別学習でした。それまでは、ドラマでたまに出てくるもの、という程度の、自分には関わりがないものだと思っていました。しかし、授業を受けてく中で「中学生の間でも流行っている。」今の時代、簡単に手に入る」といったことを聞き、薬物というものが、一気に私に近づいてきたような気がしました。

また、薬物の写真を見て、種類が多く、普通の薬にも見えるな、と感じました。薬物に手を出してしまった人の中には、普通の薬と間違っ使用してしまった人もいるのかもしれない、と思いました。

私は、薬物について知っていく中で、薬物を使う人が早くゼロになってほしいな、という思いが、だんだんと強くなっていきました。

しかし、現実ではそうもいきません。実際、インターネットで調べてみると、薬物に手を出してしまう人は、減るどころか、少しずつ増えているようです。私は、さすがに減ってきているだろうな、と思っていたので、とても驚きました。正直に言うと、薬物を使う人がゼロになることはないのではないか、とってしまいました。

薬物は、一度手を出すと、自分の意思では絶対にやめられない、ということもまた、恐ろしい点だと思います。もし薬物に手を出しそうな人がいたら止めたいと思っています。しかし、本当は、勇気が出せず、止められないと、心のどこかで思っています。そういう人がゼロにならない一つの理由かな、と思いました。

しかし、そんなことは言ってられません。自分の友達が手を出そうとしていたら…。勇気が出ない、だなんて言う前に、止めることだけを考えて行動するべきです。そういう強い意志を持っておきたいと思いました。友達だからこ止めなければいけない。本当の友達なら、きっと止められるはず。今ではそう考えています。

私には、薬物を売っている人にやめろと言いつせないかもしれません。しかし、身近な人を薬物から守ることなら、私にだってできるはずで。

ほんの小さなことでもいいのです。私は、その小さなことを大事にしたいと思っています。みなさんも、改めて薬物について考えてみてはどうですか。自分にはどうすることもできない、と終わらせてはいけません。あなたの行動が誰かを救うかもしれないのですから。

小さなことから始めましょう。非行のない世界を作るために。